

2020 年度

一橋大学大学院経営管理研究科 修士課程
経営管理専攻 経営学修士コース

金融戦略・経営財務プログラム

社会人選考募集要項

金融技術の発展、業務の自由化や経済の国際化、BIS 規制等の制度導入によって、資産運用やリスク管理、資金調達、価値評価や M&A といった金融活動は高度化を続けてきました。世界的な金融危機やエマージング・マーケットの興隆を通じて、ファイナンスの知識を体系的に習得し、金融技術を戦略的に使いこなす能力を持った人材がこれまで以上に求められています。

金融戦略・経営財務プログラムは、現代の金融業務に必要な知識を備え、問題を的確に把握し、最先端の学問と実務の成果を利用して、直面する実際の問題に自らの判断で対応できる高度な能力を持った専門的職業人の育成を目的とするプログラムです。金融に関わる幅広い問題を定性的・概念的に深く理解し、実際のデータを使って定量的に分析し、それらを経営上の判断に生かすことができる高度金融人材の育成を目指しています。

本プログラムの対象には、主に、金融機関及び商社・製造業・サービス業等の事業会社で、資産運用、リスク管理、資金調達、投資等の業務に携わる社会人を想定しています。しかしながら、近年の金融業務の範囲の拡大によって、その他の業種や官庁においても金融技術を理解する必要性は増しています。また、これからの企業経営では、市場を相手とした高いレベルでの財務的意思決定がますます重要な役割を担うようになるでしょう。本プログラムは、このような現代の金融に関し基礎知識を体系的に習得したいと考える社会人の方々に絶好の機会を提供します。

本プログラム（4 月入学）の授業は、一橋大学大学院経営管理研究科・千代田キャンパス（所在地：千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内）において、平日夜間・土曜に行います。

なお、本プログラムは、年 2 回の募集（秋期と冬期）を行いますが、募集人員は合わせて 41 人とします。また、冬期の募集は若干名とします。

1. 学生募集人員

経営学修士コース 金融戦略・経営財務プログラム 秋期募集 41 人

経営学修士コース 金融戦略・経営財務プログラム 冬期募集 若干名

2. 出願資格

入学時点において、企業・官公庁等における原則 2 年以上の実務経験を有する者で、次の各号のいずれかに該当する者。

- (1) 学校教育法第 83 条第 1 項に定める大学を卒業した者及び 2020 年 3 月までに卒業見込みの者

- (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者及び 2020 年 3 月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了し、Bachelor of Arts（以下 B. A. と略す）又は Bachelor of Science（以下 B. S. と略す）を取得した者及び 2020 年 3 月までに取得見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び 2020 年 3 月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び 2020 年 3 月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び 2020 年 3 月までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者させる大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者^{注 1)}
- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 才に達した者^{注 1)}
- (11) その他本研究科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者^{注 1)}

注 1) 上記、(9)、(10)、(11)に該当する者は、出願資格の審査が必要となります。以下審査書類受付期間より前に、本研究科事務室にメール、chiyoda-info@hub.hit-u.ac.jp、手紙、ファックス(03-4212-3006)にて申し出て、その指示に従い必要書類を提出すること。

書類受付期間：秋期：2019 年 7 月 25 日（木）から 8 月 20 日（火）

冬期：2019 年 11 月 1 日（金）から 11 月 29 日（金）

提出書類には証明書等発行に時間がかかるものもありますので余裕をもってご連絡ください。

3. 出願書類

書類等	提出対象	摘要
入学志願票	全員	所定の書式に所要事項を記入し、写真を貼付したもの。
卒業(修了)証明書等 ※学士、修士、博士にかかわらず、保有する学位すべての証明書が必要です。	出願資格(1)の方	出身大学長（学部長でも可）が作成したもの。本学卒業者は学業成績証明書をもって代えます。
	出願資格(2)の方	大学評価・学位授与機構が発行する学士の学位授与証明書
	出願資格(3)～(5)の方	B. A.又は B. S.を有する証明書
	出願資格(6)～(11)の方	出願前に一橋大学大学院千代田キャンパス事務室へ問い合わせてください。
学業成績証明書 ※学士、修士、博士にかかわらず、保有する学位すべての証明書が必要です。	全員	出身大学長（学部長でも可）が作成したもの。
在職証明書 ※2年以上の実務経験を証明できるものがが必要です。	全員	勤務先あるいは過去に勤務していた企業・官公庁等が発行したもの。 <u>在職期間又は実務経験期間を明示</u> してください。在職証明書の取得が困難な事情がある場合には、出願前に一橋大学大学院千代田キャンパス事務室へ問い合わせてください。
評価報告書	全員	所定の書式を用い、志願者の職業上の経験・能力を知る者（勤務先の上司など）が作成し、厳封したもの。 評価報告書を提出できない場合は、所定の書式に志願者自身で作成してください。この場合は、厳封の必要はありません。
修士論文計画書 3部	全員	所定の要領に従って作成したもの（詳細は別紙参照）。 1) 書式・枚数：書式はA4縦、文字は横書きとします。パソコンを使用してまとめてください。用紙等は各自で準備し、左上1点をホチキス留めしてください。 2) 内容：修士論文のテーマ、文献、使用したいと考えるデータ、論文及び報告書、基礎知識と構想、その他 3) 提出部数：正本1部、副本（正本の写し）2部、計3部
住民票の写し	外国人出願者のみ	市区町村長の交付する在留期間、在留資格が明記されたもの。外国人登録を済ませていない者は、パスポートの写し。
第1次試験結果通知書等送付用封筒	全員	定形封筒（23.5cm×12cm）に、簡易書留相当分の郵便切手を貼付の上、第1次試験結果通知書等送付先の住所・氏名を明記したもの。
入学検定料振込受取書等	全員	入学検定料の利用明細又は、振込受取書のコピー ※日本政府（文部科学省）奨学金留学生：入学検定料は振り込まずに、その旨を証明する所属大学発行の証明書を添付してください。

注) 提出書類の中に、外国語で書かれた証明書、文書等がある場合には、その日本語訳を添付してください。

ただし、英文の場合は不要です。

提出書類に不備があった場合は、審査対象とはなりませんのでご注意ください。

4. 入学検定料

入学検定料 30,000円	<p>※ 日本在住の者：銀行振込により納入してください。 振込先：三井住友銀行国立支店 口座名義：「国立大学法人一橋大学経営管理研究科検定料口」 口座種別、口座番号：「普通預金7761740」 なお、振込の際、名前の前に「633」の番号を入力してください。 必ず利用明細又は、振込受取書のコピーを出願書類と一緒に添付してください。</p> <p>※ 日本国外に在住の者：一橋大学のホームページからクレジットカード決済により納入してください。 http://www.hit-u.ac.jp/admission/index.html</p> <p>※ 日本政府（文部科学省）奨学金留学生：入学検定料は振り込まずに、その旨を証明する所属大学発行の証明書を添付してください。</p> <p style="text-align: center;">振込期間</p> <p style="text-align: center;">2019年9月30日（月）から10月4日（金）</p> <p style="text-align: center;">2020年1月10日（金）から1月16日（木）</p>
------------------	--

5. 出願方法

- (1) 志願者は、入学検定料を振り込みの上、上記3の出願書類を一括し、封筒の表に「経営学修士コース金融戦略・経営財務プログラム願書在中」と朱書きの上、所定の期間内に郵送（書留郵便）で提出してください。（消印有効）

なお、出願書類は直接持参しても受け付けませんので注意してください。

外国から出願する場合は、日本在住の代理人が出願書類等を提出することとなります。

- (2) 出願期間：

秋期 2019年9月30日（月）から10月4日（金）〔10月4日消印有効〕

冬期 2020年1月10日（金）から1月16日（木）〔1月16日消印有効〕

- (3) 願書の提出先：〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内
一橋大学大学院千代田キャンパス事務室

6. 選考方法

第1次試験（書類審査）、及びその合格者に対する第2次試験（口述試験）の結果を総合して合否を決定します。

- (1) 第1次試験（書類審査）

① 出願書類について審査を行います。

② 合否結果、及び第2次試験（口述試験）の実施日時については、

秋期 2019年11月1日（金）以降に郵送にて通知します。

冬期 2020年1月27日（月）以降に郵送にて通知します。

(2) 第2次試験（口述試験）

- ① 第1次試験（書類審査）の合格者を対象に、以下の日程で第2次試験（口述試験）を行います。
口述試験の際には必ず第1次試験結果通知書を持参してください。

秋期

期 日	試 験 科 目	試 験 時 間
11月10日(日)	口述 提出された修士論文計画書に基づき、 専門に関連する事項、その他について行 います。	9時30分～17時

冬期

期 日	試 験 科 目	試 験 時 間
2月2日(日)	口述 提出された修士論文計画書に基づき、 専門に関連する事項、その他について行 います。	9時30分～17時

② 第2次試験(口述試験)試験場

東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内 一橋大学大学院
(地下鉄竹橋駅より北へ徒歩約5分又は、神保町駅より南へ徒歩約5分)

7. 合格者発表

日 時：秋期 2019年11月18日(月) 13:00
冬期 2020年2月13日(木) 13:00

場 所：学術総合センター内 一橋大学大学院千代田キャンパス掲示場(5F)
また、合格者受験番号を本研究科ウェブサイトに掲載します。
一橋大学大学院経営管理研究科ホームページ <http://www.hub.hit-u.ac.jp>
なお、秋期・冬期とも合格者には合格通知書類を郵送します。

8. 入学手続き

(1) 入学手続き期間

秋期 2019年11月26日(火)～12月2日(月)
冬期 2020年2月21日(金)～27日(木)
(窓口を持参の場合は、土日祝除く13:00～18:30)

(2) 入学手続の際に納入する経費等

入 学 料： 282,000 円

入学料については、入学手続期間内に納入がない場合、入学辞退者となります。

(注)本学には、入学料の免除・徴収猶予の制度がありますので、希望する場合には、入学料を納入せずに、入学手続時に申請書類の交付を受けて、所定の期間内に申請を行ってください。(納付後の免除・徴収猶予の申請は出来ません。また、免除申請においては、免除実施額が僅かであり不許可者が多数発生する等、全般的に厳しい状況にあるので、入学料納入の準備は事前に十分行っておいてください。)

(3) その他

入学手続きに必要な書類とその提出方法については、合格者に郵送にて通知します。

(秋期：11月、冬期：2月)

授業料(267,900円(年額535,800円のうち半期分))については、入学後に納入することになります。納入時期、納入方法については入学後改めて通知いたします。

入学料、授業料の納入金額は、予定額であり、入学時又は在学中に改定が行われた場合には、改定時から新たな納入金額が適用されます。

(4) 追加合格

入学手続き後、欠員が生じた場合は追加合格者の決定を行う場合があります。追加合格者に対しては電話等で連絡します。追加合格者の発表は掲示しません。

9. その他

(1) 国際学生館景明館及び国際学生宿舎(学生寮)について

本学国際学生館景明館及び国際学生宿舎(学生寮)への入居希望者は、2019年12月中に本学ホームページに「入居者募集要項」を公表しますので、要項に従い申請してください。

: <http://hit-u.ac.jp/shien/campuslife/apartment.html>

(2) 予防接種について

入学直後の健康診断時に、「予防接種記録」(麻疹、風疹、ムンプス、水痘の予防接種が済んでいるか、または必要な抗体を持っている旨の証明書)を提出していただきますので、抗体価記録や母子手帳で確認しておいてください。

10. 注意事項

- (1) 気象状況や公共交通機関の遅延・運休等が入試実施に影響を及ぼす場合等、受験者に対し緊急連絡を行う場合は、本研究科ホームページ (<http://www.hub.hit-u.ac.jp>) にて通知します。
- (2) 入学試験に関する照会は、書面によるものとします。一橋大学大学院千代田キャンパス事務室宛てにメール chiyoda-info@hub.hit-u.ac.jp、手紙、ファックス(03-4212-3006)で送付してください。電話による問い合わせには応じません。
- (3) 本研究科 WEB サイトに、カリキュラム、授業時間帯、年間スケジュール等の情報を掲載しておりますのでご一読ください。 [<http://www.fs.hub.hit-u.ac.jp/>]
- (4) 出願後の志望研究科、専攻、コース、プログラムの変更は認めません。なお、志望するプログラム以外の教員の演習は選択できないので注意してください。
- (5) 出願書類及び既納の入学検定料は返却しません。
- (6) 各種証明書は必ず原本を提出することとします。複写したものは受理しません。ただし、複写可の断り書きがある書類については、この限りではありません。
- (7) 出願書類の記入にあたっては、原則としてパソコンを使用することとします。
- (8) 障害等があり受験上及び入学後の修学における配慮を希望する者は、本研究科の出願に先立ち、出願期間開始日の2週間前までに、千代田キャンパス事務室に相談を申請してください。
(上記日以降にも相談申請を受け付けますが、その場合、受験上の配慮が間に合わないことや、修学上の配慮については希望日に開始できないこともあります。) 事前相談の申請は、本学への出願を義務付けるものではありません。本研究科への出願が未定であっても事前相談申請を受け付けております。※希望する配慮内容によっては、回答に時間を要することがあります。
- (9) 入学手続き後、どのような事情があっても、入学料の払い戻しはしません。
- (10) 入学試験合格者の個人情報及び成績は、入学後の教育・学業支援等の目的に使用することがあります。

2019年度

金融戦略・経営財務プログラム教員及び授業科目一覧

【 授業担当教員 】 (○は演習担当教員)

- 伊藤 彰敏 教授 (コーポレート・ファイナンス)
- 大橋 和彦 教授 (資産価格分析、金融契約論)
- 中村 信弘 教授 (投資戦略、金利・債券市場分析)
- 本多 俊毅 教授 (資産価格理論、証券投資・ポートフォリオ)
- 中川 秀敏 教授 (金融リスクのモデル化)
- 野間 幹晴 教授 (アカウンティング、企業価値評価)
- (研) 祝迫 得夫 教授
- 鈴木 健嗣 准教授 (コーポレート・ファイナンス、経営財務)
- 宮川 大介 准教授 (金融仲介、企業ダイナミクス、債券・不動産市場)
- 横内 大介 准教授 (データサイエンス、計量ファイナンス)
- 福原 正大 特任教授
- 藤田 勉 特任教授
- 佐山 展生 客員教授
- 山本 一彦 客員教授
- 知野 雅彦 客員教授
- 土岐 大介 客員教授
- 幸田 博人 客員教授
- 石橋 善一郎 非常勤講師
- 鍋井 弘士 非常勤講師
- 山ノ内 健太 非常勤講師
- 山口 勝業 非常勤講師
- 青木 義充 非常勤講師
- 足立 高德 非常勤講師
- 田中 晋矢 非常勤講師
- 北野 利幸 非常勤講師
- 力丸 佑紀 非常勤講師
- 馬場 義徳 非常勤講師
- 箴島 靖文 非常勤講師
- 安久 芳伸 非常勤講師
- 岩井 真希子 非常勤講師

(研) : 経済研究所所属

【 授業科目一覧 】

金融戦略・経営財務プログラムでは、履修上必要となるパソコンやソフトウェア等を、各自で用意していただくことを前提にカリキュラムが構成されています。

カッコ内は単位数

〔基礎科目〕

ファイナンス理論の基礎 (2)	金融データ分析の基礎(2)
コーポレートファイナンスの基礎(2)	会計・バリュエーションの基礎(2)
ファイナンス理論(2)	コンピューターショナル・ファイナンス(2)
金融数理の基礎(2)	

〔専門科目〕

入門科目

金融数理入門(1)	線形モデル入門(1)
金融リスク計量入門(1)	時系列分析入門(1)

コーポレートファイナンス関連

コーポレート・ファイナンスにおける諸問題(1)	国際財務管理 (1)
プライベート・エクイティと資本市場(2)	金融機関の戦略的経営(1)
グローバル M&A(1)	アントレプレナー・ファイナンス(2)
業績管理会計(1)	CFO と企業価値(1)
M&Aと事業再生の実践 I (1) ※寄附講義 副演習(2)	M&Aと事業再生の実践 II (1) ※寄附講義

インベストメント・アセットプライシング関連

ファイナンスにおける諸問題(1)	ポートフォリオ投資論(2)
投資戦略論(2)	金融経済学 (情報とインセンティブ) (1)
資産価格の実証分析(2)	エナジーファイナンス(1)

フィナンシャルエンジニアリング・リスクマネジメント関連

金融数理(2)	フィナンシャル・リスク・マネジメント (2)
派生証券理論(2)	アルゴリズム取引の数理(1)
金融リスク計量における諸問題(1)	

データ分析関連

金融データ分析(2)	金融データ分析：演習(2)
データサイエンス概論(2)	統計科学の数理（推定手法・モデル選択）
ベイズ統計学（MCMC 法）(1)	金融データリテラシー I (1)
金融データリテラシーII(1)	

経済学・経営学関連

サービス経営のファイナンス(1)	グローバル・リーダーシップ(2)
行動経済学(1)	経営における職業倫理(1)
FinTech と金融市場(2) ※寄附講義	FinTech とイノベーション(1) ※寄附講義

☆博士後期課程

〔専門科目〕

資産価格理論(1)	金融市場の計量ファイナンス(1)
コーポレート・ファイナンスの実証分析 I (1)	コーポレート・ファイナンスの実証分析 II (1)

【修了要件】

- ▶ 本プログラムの修了要件は、2年以上在学し、講義科目26単位以上、演習8単位以上を修得しなければなりません。ただし次の2条件を満たす必要があります：①講義科目は本プログラム講義科目から18単位以上を修得しなければなりません。②基礎科目7科目の中から4科目（8単位）以上修得しなければなりません。
- さらに、必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う学位論文の審査及び最終試験に合格することです。修了者には「経営学修士」の学位が授与されます。

講義で使用するパソコン等について

本プログラム講義で必要となるパソコン、ソフトウェアは、各自で用意してください。

カリキュラム

〔金融戦略・経営財務プログラムの目的とアドミッション・ポリシー〕

金融技術の発展、業務の自由化や経済の国際化、会計制度の国際化、コーポレート・ガバナンス面での制度上の整備によって、資産運用やリスク管理、資金調達、価値評価やM&Aといった金融活動は高度化を続けてきました。世界的な金融危機やエマージング・マーケットの興隆を通じて、ファイナンスの知識を体系的に習得し、金融技術を戦略的に使いこなす能力を持った人材がこれまで以上に求められています。

金融戦略・経営財務プログラムは、現代の金融業務に必要な知識を備え、問題を的確に把握し、最先端の学問と実務の成果を利用して、直面する実際の問題に自らの判断で対応できる高度な能力を持った専門的職業人の育成を目的とするプログラムです。金融に関わる幅広い問題を定性的・概念的に深く理解し、実際のデータを使って定量的に分析し、それらを経営上の判断に生かすことができる高度金融人材の育成を目指しています。

入学試験の目的は、出願者の全体の中から、我々のプログラムに最も適する応募者を見出すことにあります。金融戦略・経営財務プログラムのカリキュラムは、高度な金融人材の育成を目的として構成されています。このため、入学者が上記の出願資格を満たすことに加え、つぎのような要件を満たすことを期待しています。

入学者に求められる能力

以下は、本プログラムの講義・ゼミを履修して単位を取得するために必要となる能力です。これらすべてが満たされていることが望ましいと考えます。不足していると自覚する項目があれば、自ら努力をして改善してゆくことが求められます。

- ・何よりもまず自分の頭で考えて問題解決しようという意識が強いこと
- ・自分の考えを論理的に口頭発表や文章で表現するとともに、他者の考えにもきちんと耳を傾けて意見交換することができるようなコミュニケーションが図れること
- ・英語で書かれた書籍や専門論文をきちんと読解することができること
- ・ファイナンスの理論モデルを理解したり統計分析を行ったりするための準備として、少なくとも高等学校までの数学（微分・積分、数列とその和）を理解している者、あるいは短期間で復習する意欲がある者
- ・ワープロ、表計算ソフト等を苦勞なく操作できるコンピュータのスキルを身につけていること

本プログラムでの学習をより充実したものにするために求められる能力

以下は、本プログラムでより質の高い学習をしたり、より質の高い修士論文を作成したりするために、入学者が習得していると好ましい能力の例です。

- ・経済学、会計学、経営学、統計学等の基本的な理解
- ・財務会計や企業価値評価の基礎的な事項を学習しており、財務諸表分析の経験があること
- ・外国人教員やゲストスピーカーによる英語の授業を理解し、英文レポートの作成やケース・スタディの議論が英語でできること
- ・統計学やデータ分析の基礎的な事項を学び、統計や計量経済学のソフトウェア（SAS, Gauss, RATS, Eviews, S-Plus, R, STATA など）、C, C++といったプログラム言語、MatLab, Mathematica といった数値計算プログラムなどを利用した経験があること
- ・大学学部の課程において、線形代数、多変量解析、微分方程式、確率論、中級以上の統計学などの授業を履修しその内容を十分に理解していること
- ・経営学、会計学、商学、経済学、歴史学、社会学、心理学など、多様な社会科学の学問を幅広く学んでいること

〔カリキュラム〕

金融戦略・経営財務プログラムは、平日の18時20分に講義を開始するプログラムです。また土曜昼間に提供する講義もあります。講義は外国人教員による場合等以外は日本語で行われます。各学年は、4月に始まり翌年の3月に終了します。修士課程の標準修了年限は2年です。修了の要件は、本研究科で規定の単位数（34単位）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することです。

授業は、基礎科目と専門科目の講義、及び専門科目の演習に分けられます。基礎科目の講義では、全体を広く理解するために必要な基礎知識を習得します。専門科目の講義では、特定のトピックについて詳しく学びます。演習では、受講者が自ら選んだテーマに関して研究し問題解決を的確に行える力を身につけます。演習は必修です。演習による指導は一橋大学の伝統であり、教育システムとして国際的に高い評価を受けています。

平日毎日1コマの授業を履修し続けると、少しの余裕をもって2年間で修了することが出来ます。授業の内容が豊富であるため、平日は夜間しか勉強する時間が取れない学生は、毎日1コマの授業履修の準備（予習と復習、宿題等、毎日3時間程度）で各週の時間を使い果たすことになるでしょう。夜間だけでなく昼間も勉強する時間を与えられた学生は、平日毎日2コマの授業履修の準備を行うことが出来るでしょう。

金融戦略・経営財務プログラムの授業に加え、学生は、定められた範囲内で経営管理研究科経営管理専攻経営管理プログラム、同研究科国際企業戦略専攻、及び法学研究科ビジネスロー専攻の科目を単位として取得することができます。

修了者には、経営学修士の学位が与えられます。

〔開講科目〕

基礎科目

基礎科目では、現代のファイナンス全体の理解に必要な基礎知識を、投資と価格決定の理論、統計的方法に基づくデータ分析と実証、企業金融と財務の3分野に分割し、以下の講義で網羅します。

○ ファイナンス理論の基礎：

ファイナンス理論の基礎では、資産価格、投資、資金調達の決定に関するファイナンスの基本的な考え方を広く学びます。全体像の体系的な理解と専門への基礎知識の習得のために、ファイナンス理論の基礎、ファイナンス理論双方の履修を推奨します。概要：基礎では、まず、ファイナンス理論の全体像の中で機軸となる幾つかの基礎理論の位置付けを鳥瞰します。その後、無裁定による資産価格の決定とその応用、マルチンゲール価格理論の基礎、Black-Scholes オプション価格公式等を学びます。最も単純な1期間モデルにおいて基本的な結果を網羅的に理解した後、それらを多期間モデルの枠組みへと拡張します。

○ 金融データ分析の基礎：

経済・ファイナンスデータの分析に必要となる統計学と計量経済学の基礎理論について解説します。また、パソコン実習を適宜行うことで、統計ソフトウェアの基本的な使い方を学ぶとともに、実際の経済・ファイナンスデータを分析することも行います。講義を通じて、統計学と計量経済学の基礎理論を理解するとともに、授業で学んだモデルを推定し、結果を正しく解釈できるようになることを目標とします。

○ コーポレート・ファイナンスの基礎：

本講義の目的は、コーポレート・ファイナンスの基礎的な概念や理論について学習し、実際的な意思決定問題への応用力を養うことです。本講義では、経営上の重要な課題がコーポレート・ファイナンスの観点からどのように分析されるかを議論します。具体的には、(1) 価値評価(valuation)と投資の意思決定、(2) 資本構成に関するトレードオフ理論、(3) 利益還元政策(配当と自社株買い)、(4) エイジェンシー問題と経営者のインセンティブ、(5) 情報の非対称性と財務的意思決定について論じます。

○ 会計・バリュエーションの基礎：

金融戦略・経営財務プログラムにおける計量分析に最低限必要なアカウンティングの知識の習得、財務諸表分析の手法、そして会計情報を用いた企業評価フレームワーク（DDM、DCF、EVA、残余利益モデルなど）を正確に理解することが、本科目の目標です。それによって、株価などのデータと、企業が公表する会計データとの統合的な分析が可能となることを期待します。レクチャーとともに、関連するケースをとりあげて、分析・ディスカッションを行うことにより理論に関する理解を深めます。

○ ファイナンス理論：

ファイナンス理論の基礎で扱えなかった証券価格及び投資決定に関する基礎理論を広く学びます。ここでは、投資の最適化と資産価格及び情報の非対称性が金融活動に与える影響を中心に学びます。具体的には、不確実性下における投資決定問題、平均分散アプローチとCAPM、代表的個人とCCAPM、APT、多期間最適化問題とダイナミック・プログラミング、情報の非対称性と資金調達、インセティブと金融契約、流動性等の問題を扱います。

○ コンピュータシヨナル・ファイナンス：

ファイナンスのモデル検証では数値解法、数値計算が重要な要素技術です。本講義では、まず、簡単にプログラミング技法のガイダンスを行った後、ファイナンスで現れる事例を通じて、プログラミングに慣れてもらいます。続いて、ファイナンスの代表的数値計算法（オプション評価、格子法、モンテ・カルロ法など）を順次、解説していきます。その他に、数値計算技術の観点からリスク管理、金融市場の計量分析に繋がる入門的话题も取り上げます。

○ 金融数理の基礎：

確率モデルを用いて金融市場を理論的に分析する学問である「数理ファイナンス」の基本的な概念を理解するために必要な数学（確率解析）の基礎的な内容を理解してもらうことがねらいです。具体的には、離散時間モデルにおけるデリバティブの価格付け理論の理解を最終的な目的としますが、そのために必要となる確率論の知識・考え方および、さらにその前提となる論理・集合論・測度論・積分論などの基本的な知識・考え方にまで立ち戻って理解してもらうことを目指します。

専門科目（講義）

専門科目の講義では、特定の分野に関する専門的な知識を習得します。講義科目名は以下の通りです。扱う内容の水準に応じて「入門的内容」「標準的内容」「発展的内容（博士後期課程向け科目）」と整理しています。

◆入門的内容

○ 線形モデル入門：

線形モデルを理解するために必要となる数学の基礎知識を復習したのち、線形モデルの基礎理論を学習します。また、統計ソフトウェアRを用いたデータ分析法についても学習します。本講義の目的は、データ分析のなかで最も基本的なモデルである線形モデルの基礎理論の習得にあります。自らが独力で線形モデルによるデータ分析が行えるようになるために必要となる数学の知識、Rの操作法を含めて習熟することが目標です。

○ 金融数理入門：

金融戦略・経営財務プログラムの各授業で用いられる基本的な数学の理解を目的としています。講義では、直感的な理解を助けるような解説と考える力を養うための問題演習を行う予定です。基本的な数学を理解している学生や理工学部出身の学生は「金融数理の基礎」からの受講を強く勧めます。金融戦略・経営財務プログラムで学習・研究をしていくうえで最低限必要となる数学知識の習得を目的としており、特に関数の微分に焦点を絞って解説します。具体的には、関数の極限・偏分、テーラー展開の理解を通じて、関数の極値、最大値・最小値問題を解けるようにしていきます。

○ 金融リスク計量入門：

金融リスク（市場リスク・信用リスク）の計量に関するいくつかの入門的内容を扱います。数式に基づいた理論の説明よりも、Excel のツールによるデータ作業を通じてリスク計測のエッセンスを理解してもらいます。最終的にはリスク分析に関連するやや実践的な課題にも取り組んでもらいます。

○ 時系列分析入門：

本講義では、株価などの金融分野における時系列データの解析法の習得を目的としています。時系列データの成り立ちから解析方法までの理論的な背景と、統計ソフトウェア R を用いた実践的な解析方法の両面について学習します。具体的には、①時系列データの特徴 ②時間依存関係と定常性 ③自己回帰モデルの導入④単位根過程の特徴 ⑤状態空間モデルの導入 ⑥Rを用いた時系列データ分析を学習する予定です。

履修に当たっては、確率変数、確率分布に対する基本的な知識を有しており、線形モデル（回帰分析）を扱った経験があることが望ましい。また、R の起動と簡単な操作を習得していることも望ましい。ただし、初学者にも配慮して講義をすすめるため、記要件は必須条項ではありません。

◆標準的内容

<コーポレート・ファイナンス関連科目>

○ コーポレート・ファイナンスにおける諸問題：

本授業では、「コーポレート・ファイナンスの基礎」で習得した知識をベースにしつつ、コーポレート・ファイナンスに関する具体的なトピックについて理論・実証の両面でこれまでの研究成果を概観することで、コーポレート・ファイナンスに関する理解を深めることを目的としています。

○ 国際財務管理：

「コーポレート・ファイナンスの基礎」で習得した知識をベースとしつつ、国際財務の諸問題のいくつかについてケース討論を通じて理解を深めることをめざします。原則、講義・ケース討論は英語で行う予定です。ただし日本語による補完も可とします。

○ プライベート・エクイティと資本市場：

本講義は、「プライベート・エクイティと資本市場」について、近年実業界で関心が高まっている専門的なトピックスを取り上げ、理論と実務の両面から講義を行う。資本市場の発展に近年関与している VC やバイアウト・ファンドの広がりや課題、及び、資本市場における企業の経営戦略と財務経営／コーポレート・ガバナンス等をテーマとする。各分野における有識者をゲスト講師として招聘し、実業界の最新動向を学び体系化することを通じて、我が国の資本市場の将来を考えることが本講義の目的である。

○ 金融機関の戦略的経営：

この講義では、外資系投資銀行、資産運用会社の経営を、ビジネスモデル、時代の潮流、組織運営から学びます。外資系経営者の論点整理、論理展開、意思決定の把握、その応用可能性を体得します。

○アントレプレナー・ファイナンス：

ベンチャー企業は、イノベーションを生み出し、新産業を創造する主体として期待されています。米国においては、マイクロソフト、アップル、グーグル、フェイスブックをはじめベンチャー企業から世界的な大企業に発展した企業群が経済の牽引役となっています。一方、わが国においては、ベンチャー企業の活躍は限定的であると言わざるを得ません。本講義においては、ベンチャー企業の事業戦略と財務戦略に両面において経験豊富な講師が、理論と実務の双方の観点から、ベンチャー企業の成長の鍵を握るアントレプレナー・ファイナンスについて、その基礎理論から具体的なバリュエーション方法、ディールストラクチャー設計まで、詳細に講義を行います。

本講義においては、ベンチャー企業の成功の鍵とも言えるアントレプレナー・ファイナンスについて、理論と実務、両面の知識とそれら相互の関わりを理解すること、その上で、新事業創造に向けてそれらの知識を実務で活用できるようになることを到達目標とします。

○ **グローバル M&A :**

日本企業に関連したクロスボーダーM&Aを題材の中心として、企業経営における M&A 活用の考え方、実務上のプラクティスや留意点、M&A 対象地域毎の特徴・比較、最新の動向や論点、個別案件の事例研究等も交えながら、現場の実務の視点から考察します。

○ **業績管理会計 :**

本科目では営利企業における業績管理を目的とする管理会計を学びます。企業価値を向上させる CFO の役割の根幹には、①企業の長期の持続的な成長に向けて戦略を実行し、②企業の短期の利益目標達成に向けて業績管理を行う、の 2 点があります。業績管理会計の体系や歴史、主要な技法が如何に使用されているかを学びながら、長期的な戦略の実行と短期的な業績の改善の 2 つのミッションを如何にバランスさせるべきかを考えていきます。

○ **CFO と企業価値 :**

本科目では CFO(Chief Financial Officer)が企業価値向上に如何に貢献することができるかを考えます。本科目の目的は、CFO の企業価値向上への役割を理解し、日本における営利企業の事業管理を業とする「管理会計プロフェッショナル」のキャリアの可能性を、組織のおよび個人的な 2 つの側面から検討することにあります。

○ **M&A と事業再生の実践 I :**

経営環境の変化が激しい昨今、企業はさまざまな事態に直面します。企業は急激な環境の変化に対応するため、絶えず自らの事業ポートフォリオを見直し、事業を売却し、統合し、整理し、買収し、再生・再建しながら、成長を続けていかななくてはなりません。したがって、M&A や事業再生の手法に関する深い理解は、現代の経営に必須です。本寄附講義では、この分野の第一線で活躍する KPMG グループのパートナー等の実務家が、M&A と事業再生の現場で実際に行われている意思決定を例に、事業・財務戦略の実践方法とそれに関する諸問題を、経営・財務・会計・法律を含めた広い視野から議論します。

本科目では、M&A に関する (1) ディールエグゼキューション、(2) 事業価値評価、(3) 財務デューデリ、(4) ビジネスデューデリ、(5) PMI、の実務的な知識を概観することを目的とします。具体的には、個別のケースを題材として、M&A の各段階における業務について実務的な議論が行えるようになることを到達目標とします。

○ **M&A と事業再生の実践 II :**

本科目では、M&A および事業再生に関する実務家を交えたディスカッションに加えて、事業再生について (1) オペレーショナル・リストラクチャリング、(2) フィナンシャル・リストラクチャリングに関する実務的な知識を概観することを目的とします。具体的には、個別のケースを題材として、M&A ・事業再生の各段階における業務について実務的な議論が行えるようになることを到達目標とします。

○ **副演習 :**

バイアウト・ファンドの仕組みについて説明し、各人が仮想ファンドを設定することから始め、上場企業の中から投資候補先を選定し、その候補先を 100%買収できたと仮定して、入札方式で、その売却を行います。バイアウト・ファンドの理解から、実践を踏まえ、バイアウトの理解を深めることを目標とします。

<インベストメント・アセットプライシング関連科目>

○ ファイナンスにおける諸問題：

ファイナンスの基礎的、古典的な論文を中心に、それらの文献でどのような分析が行われ、分析結果を著者がどのように解釈、説明しているのかを読み解くことに重点をおきます。

単なる知識の習得ではなく、専門用語の意味の正確な理解、学位取得論文の書き方や学術文献の読み方の習得を重視します。学術研究の結果を正確に理解、解釈してゆけるようになることを目標とします。

○ ポートフォリオ投資論：

株式や債券といった標準的な資産を対象に、運用資産が比較的大きなポートフォリオ運用について学んでゆきます。ポートフォリオの構築には経済学、ファイナンス、数理計画法、統計学、確率論といった多くの分野の包括的な知識が必要となります。資産価格モデルを通じた資産市場の分析と、ポートフォリオ構築における諸問題の関係について理解することが目的です。実務でよく用いられるポートフォリオ構築方法やリスク管理手法を理解し、応用力を養うことが目標です。

○ 投資戦略論：

リスク資産の実践的な投資戦略について幾つかの事例を通じて学ぶ。その理論的背景や必要な基礎知識を講義で解説し、周辺の関連する話題を取り上げます。各基礎科目群で学んだ方法を実際の投資に如何に応用し、実践していくかということ学ぶ。実際の投資戦略は多岐にわたるため、この講義では、網羅的に取り上げるのではなく、幾つかの代表的な方法論を軸に、応用事例を通じて基礎知識を学習していきます。投資対象には金利商品・債券も含まれるため、金利・債券の必要最低限の基礎知識は講義の中で補うようにします。

○ 金融経済学（情報とインセンティブ）：

本講義では、現代の金融市場の特性を情報とインセンティブの観点から理解します。そのために、まずキャッシュフローの把握とリスク評価、インセンティブと金融商品の設計について契約論の立場から議論します。さらに、流動性と市場価格、金融市場とマクロ経済学、金融市場の変化に関する問題について考察します。

○ 資産価格の実証分析：

主に株式を対象に、様々な資産価格論の実証分析の手法・実例について講義します。資産価格論とマクロ経済学の関わりについても取り上げます。この分野で論文を書こうとする受講者を念頭におき、自力で研究を行うのに必要な分析手法を身につけてもらうとともに、比較的最近までの研究を紹介していきます。

○ エナジーファイナンス：

本講義は、エネルギー分野を中心とする商品の取引や価格決定、そしてリスク管理や投資に対するファイナンスの利用について学ぶことを目的とします。

<フィナンシャルエンジニアリング・リスクマネジメント関連科目>

○ 金融数理：

金融工学、数理ファイナンスに必要な基礎的な数学（特に初等確率論）を、具体的に手を動かして計算することで理解できるように講義します。

○ ファイナンシャル・リスク・マネジメント：

信用リスクを内包する社債や CDS などのクレジット・デリバティブズといった金融商品の価格付け理論や、銀行などの多数の貸付ポートフォリオのリスク評価などへの応用法について紹介します。

目的・到達目標：

- ・ブラウン運動など確率解析の基本的な概念と応用例を身につけること
- ・信用リスクに関連してどのような数理的に困難な問題があるかを知ること

- ・数理ファイナンスにおける信用リスク・モデルの2つの代表的アプローチ（構造型と誘導型）の基本的な考え方と基本的な数理手法を理解すること
- ・ポートフォリオレベルの信用リスクのモデル化の基本的なアプローチと基本的な数理手法を理解すること

○ **派生証券理論：**

金融工学、数理ファイナンスで重要なデリバティブの価格付けを、離散と連続のふたつの確率過程の下で具体的に手を動かして計算することで理解できるように講義します。

○ **アルゴリズム取引の数理：**

近年、株式市場で趨勢を占めるようになってきたコンピュータによる電子取引=アルゴリズム取引について学びます。特に、新聞やマスコミでも話題になっている高頻度取引の背後にある数学的技術について講義します。

○ **金融リスク計量における諸問題：**

金融リスク管理の実務でよく用いられるモデルの方法論や考え方をそれぞれ概観することで、経営意思決定に定量的リスク管理の視点を取り入れるための基礎となるような知識を得ることを目的とする。

<データ分析関連科目>

○ **金融データ分析：**

「金融データ分析の基礎」で学んだ内容を踏まえて、経済・ファイナンスデータを用いた実証分析に必要な計量経済学の発展的な理論について解説します。具体的には、内生性の問題への対処、制限従属変数モデル、パネルデータ分析などを取り扱います。特にデータ分析演習を重点的にを行います。

本科目では、(1) ミクロ実証分析で用いられる計量経済学的な知識を講義によって習得することと、(2) 計量経済学的な分析の作法を演習によって身に付けることを目的とします。具体的には、アカデミックな研究論文における標準的な実証分析結果を正しく理解出来るようになること、分析テーマ・分析手法・データが与えられた場合に適切な実証分析が行えるようになることを到達目標とします。

○ **金融データ分析：演習**

本科目では、ミクロ実証分析で用いられる計量経済学的手法に関する演習（データ演習、文献レビュー）を通じて、実証分析の作法を習得することを目的とします。講義の中心的な内容は、「金融データ分析」で議論された実証手法について、サンプルデータを用いた演習となります。修士論文の執筆に向けた基礎的な分析スキルの涵養を目的とします。

○ **データサイエンス概論：**

データサイエンスを実践するための基本的な作業フローであるデータ取得、データ浄化、視覚化、解析、モデリングの各工程についての解説を行います。その後、データサイエンスの新しい話題として、人工知能開発の基礎技術の一つである機械学習を取り上げ、その基礎理論を解説します。講義に出てくる各手法の理解を深めるため、適宜、パソコンと統計ソフトウェアを用いた実習を行います。

○ **統計科学の数理（推定手法・モデル選択）：**

この科目は数理統計学の応用の授業である。すでに入門的な統計学を知っている者が、数理統計学の基礎的な内容について、さらに理解を深めることを目的としています。数理統計学の基礎的な内容について、その概念と数理的な意味を自分の力で勉強し、人に説明できるレベルまで理解することが求められます。

○ **ベイズ統計学 (MCMC 法) :**

本講義では、ベイズ的アプローチによるデータ解析法の習得を目的としています。具体的には、伝統的な頻度論的アプローチと対比させながらベイズ的アプローチの基本概念を解説した後、ギブスサンプラーを中心に MCMC 法の理論、統計解析ソフトウェア R によるプログラミングについて解説します。なお、ベイズ統計学の入門講座頻度論的アプローチによるデータ解析法と R の基本操作についてはすでに習得しているものとしますので、事前に「金融データ分析の基礎」などを受講しておくことを勧めます。

条件付確率とベイズの定理を理解し、事前分布と尤度を組み合わせた事後分布を求める仕組みを理解します。また、マルコフ連鎖を利用したサンプリング法である MCMC 法の理論と R における実装法を身に着けます。

○ **金融データリテラシー I :**

本講義は、金融データ分析に必要なデータ取得・データのセットアップ等について学びます。「金融データリテラシー I」では特に、マーケットデータについて解説します。また、取得したデータを用いて、統計ソフトウェア R を用いた実践的な解析についても学習します。

○ **金融データリテラシー II :**

本講義は、金融データ分析に必要なデータ取得・データのセットアップ等について学びます。「金融データリテラシー II」では特に、企業財務データについて解説します。また、取得したデータを用いて、統計ソフトウェア R を用いた実践的な解析についても学習します。

< **経済学・経営学関連科目** >

○ **サービス経営のファイナンス :**

宿泊施設の開発や再生事業における収益構造、資金調達方法、事業性の判断基準、差別化の方法やホスピタリティ等について、星野リゾートにおけるケースや課題を通じて実践的に理解を深めることを目的とします

○ **グローバル・リーダーシップ :**

金融セクターにおいてグローバルリーダー力をつけるとともに、自らのキャリアデザインの構築を目指します。そのため、一方向の講義ではなく、皆さまがアクティブに参加され、考え、そして行動を起こすことが求められます。ケース・スタディ・課題を通じて各スキルとマインドセットを育成していきます。また、世界規模で活動する金融セクター（大手金融機関経営者、起業家、アメリカの金融セクターのエンジェル投資家など）のグローバルリーダーをお呼びし、学んだスキルとマインドセットを基に、直接対話し、具体的な実践事例に触れ、グローバル・リーダーシップを身につけることを狙いとしています。15回の授業すべてにアクティブに参加していただくと、金融機関、そして社会におけるグローバルリーダーとしてのキャリアをデザインすることができるようになるでしょう。

○ **行動経済学 :**

経済行動（とくに資産運用）における認知・判断バイアスを実務的な事例に即して学習します。伝統的な経済学では、合理的な経済人が自己の利得を最大化する行動をとることで市場では均衡価格が成立する、と想定してきました。しかし現実には理論が想定するほど人々は合理的ではないことが一連の行動経済学の研究であきらかにされてきました。本講座では行動ファイナンスの主要トピックを学びつつ、ケース・スタディを通じて、実務的な場面での意思決定とバイアスを、受講生が自分自身の体験に照らして考えられるようにしたいと思います。

○ **経営における職業倫理：**

職業倫理のあり方を金融業界（特に資産運用業界）の具体的な事例に即して学習します。しばしば発生する会計不正や欠陥製品など企業不祥事は、顧客や投資家からの信用を失墜させ、結果的に企業価値を既存させる。これらの事件の根底には経営における職業倫理の軽視があります。とくに金融業界では扱う商品・サービスの特殊性と業務の専門性のゆえに職業倫理と行為規範が問われます。本講義では専門職プロフェッショナルが身につけるべき倫理と行為規範を、ケース・スタディとディスカッションを通じて学習します。

○ **FinTech とイノベーション：**

FinTech とイノベーションについて講義を行います。その後は、FinTech 分野のスタートアップ、ベンチャーキャピタリスト、法律事務所、規制当局からゲストスピーカーを招聘します。FinTech が既存の金融機関に与える影響を理解したうえで、各社に求められる変革について考えます。

○ **FinTech と金融市場：**

本講義は、FinTech の最前線とその論点を議論すると同時に、FinTech の本質について検討します。金融取引の多くが既にデジタル化し、またファイナンスと情報技術は以前から深く関連しているにもかかわらず、今、FinTech に着目される論理を問い直す必要があります。さまざまな現象が生じていますが、本講義では FinTech が金融市場にどのようなインパクトを与えるのかを本質的に考えます。特に既存の金融機関が FinTech によってどのような変革を求められているのかを議論します。また FinTech を活用して金融業界に参入するスタートアップについても紹介します。そのうえで、従来の「金融業界」にとどまらず、さまざまな企業がビジネスモデルの変革を迫られますが、そこでの戦略について議論します。さらには、理論とアートを峻別したうえで新たなレギュレーションの構築が求められていること、そして規制当局のレギュレーション等について検討します。

◆**発展的内容（博士後期課程科目）**

以下の科目は博士後期課程学生向けの科目ですが、修士課程学生であっても、当該科目担当教員と面接の上、承認されれば、履修することが出来ます。

○ **資産価格理論：**

本講義は、ファイナンスに関する博士課程基礎レベルの理論を学ぶ上級科目です。資産価格理論で用いられる様々な基礎概念やモデルの理解を主としつつ、ファイナンスにおける主要トピックについて学習します。受講者には、教科書及び関連資料に関する報告及び議論への参加を通じて、自らの手で理論を展開する力の習得が求められます。

○ **金融市場の計量ファイナンス：**

金融市場の計量分析において重要な役割を果たす代表的な時系列モデルを概観した後に、ベイズ統計に基づく時系列の推定法や様々なフィルタリングによる状態推定法などを学びます。博士課程向けに開講された本講義は、金融市場の高度な計量分析を行うための方法論の習得を目的とします。

○ **コーポレート・ファイナンスの実証分析 I：**

博士後期課程の学生を対象に、コーポレート・ファイナンスにおけるいくつかのトピックについて研究の最新動向を展望することを目的とします。修士課程の学生でも、担当教員が十分なバックグラウンドを持つと判断した場合には履修を認めます。

○ コーポレート・ファイナンスの実証分析Ⅱ：

本講義は、コーポレート・ファイナンスに関する博士課程レベルの実証研究を学ぶ上級科目です。コーポレート・ファイナンスに関する分野を特定し、関連する基礎概念、理論モデルを概観しつつ、実証論文を輪読します。論文の輪読を通じて、コーポレート・ファイナンスの実証研究でどうしても貢献のある論文を書けるか学んでいきます。

演習

演習は必修です。受講者は、以上の講義に加え演習として、特定の教員の指導のもと特定の問題について研究することを求められます。研究する問題は各自が入試申請時に提出した研究計画書に記述されたものを基本とします。授業科目のなかで身につけた方法論と理論的知識、さらに自らの実務経験をもとにして演習を行います。学位論文は、この演習における学習・研究をもとに作成されます。通常、指導教員を中心とするセミナー形式で研究が進められ、受講者には積極的な貢献が期待されます。

志望専攻及びプログラム		経営管理専攻 経営学修士コース 金融戦略・経営財務プログラム				
論文の題目						
氏名	(フリガナ)	男・女	出身大学	大学		
				学部	学科	
	西暦 年 月 日生 (歳)			西暦 年 月 卒業		
写真貼付欄 1. 最近3ヶ月以内に撮影 2. 正面向き上半身脱帽 3. 縦5cm×横4cm 4. 裏面に氏名を記入		氏名の ローマ字表記	姓 (Family Name) 名 (Given Name) (Middle Name)			
		現住所	〒			
		現勤務先	社名：		企業派遣	
		部署・役職	部署名： 役職：		有・無	
業種	(○で囲む) 1. 銀行・リース 2. 証券 3. 保険 4. 資産運用 5. 貿易商社 6. コンサルティング 7. 監査法人・税理士法人等 8. 製造業 9. 建設 10. 運輸 11. ガス・電気 12. 情報・通信 13. 小売り流通 14. サービス業 15. 官公庁 16. その他()					
学歴	課程・事項	学校名及び所在地	修業年限	入学及び卒業年月 (西暦)		取得学位等
	初等教育 小学校	学校名 所在地	年	入学 年 月 卒業 年 月		
	中等教育 中学校	学校名 所在地	年	入学 年 月 卒業 年 月		
	中等教育 高等学校	学校名 所在地	年	入学 年 月 卒業 年 月		
	高等教育 大学	学校名 所在地	年	入学 年 月 卒業 年 月		
		学校名 所在地	年	入学 年 月 卒業 年 月		
		学校名 所在地	年	入学 年 月 卒業 年 月		
受験実績	TOEFL・TOEIC・()		年 月	点		
職歴	勤務先名 (関連する資格)		勤務年数	勤務期間 (西暦)		職務内容
			年	年 月から 現在		
			年	年 月から 年 月まで		
			年	年 月から 年 月まで		
			年	年 月から 年 月まで		
			年	年 月から 年 月まで		

注) 学歴(小学校は外国籍の方のみ)・職歴欄が足りない場合は、裏面に適宜記入してください。

(別紙)

評価報告書

一橋大学大学院経営管理研究科 経営管理専攻 金融戦略・経営財務プログラム入学試験の重要な情報となりますので、できるだけ具体的に、かつ、お考えの評価が正確に伝わるようにお書きください。ご協力に感謝いたします。

【評価報告者と申請者（入学志願者）との関係】

1. あなたは、この志願者をどの程度の期間、どのような関係でご存知ですか？

評価報告者及び志願者の所属していた法人・部・課名等、できるだけ具体的にお答えください。

評価報告者と志願者との関係（具体的に）

期間

年 月から 年 月

評価報告者（直筆サイン又は印）：

志願者：

2. 業務を通じて、あるいはその他の機会において、あなたから見たこの志願者の評価を、以下の項目についてお答えください。（②の(a)から(f)に関しては、ご評価の点数に○印をご記入ください。）

① 志願者が行っていた（いる）業務の内容：

（できるだけ具体的に3行から5行ほどでご説明ください。）

② 評価報告者による志願者の能力評価：

(a) 総合評価

1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----10

極めて劣っている

極めて優れている

(b) 基礎的な学力と理解力

1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----10

極めて劣っている

極めて優れている

(別紙)

(c)問題の本質を見抜き、新しいアイデアを着想する力

1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----10

極めて劣っている

極めて優れている

(d)アイデアを具体的な企画に変え、それを実現に結びつける力

1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----10

極めて劣っている

極めて優れている

(e)人を説得し、目標実現に組織を統率する力

1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----10

極めて劣っている

極めて優れている

(f)協力者を増やし、また人と協力して働く力

1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----10

極めて劣っている

極めて優れている

③ 以上の評価の理由として具体的に特記すべきことがあればお書きください。

3. あなたは、同様の業務を行っている人達をいままで何人ご覧になってきましたか？その中で、この志願者は上位何%に属するとお考えですか？

以上

(別紙)

修士論文計画書作成要項

研究計画書は表紙 1 ページ、内容 8 ページ、合計 9 ページを上限とします。作成にあたってはパソコンなどを用い、A4 用紙縦に横書き、日本語で作成してください。計画書に盛り込む内容は以下の 3 つのパートから成り立っています。作成の際はパートごとに改ページしてください。文字サイズは 10.5 ポイント以上にしてください。

1：志望理由・自己アピール (4 ページ以内)

Q1 と Q2 の間、Q2 と Q3 の間は改ページしてください。

2：修士論文計画書 (3 ページ以内)

3：その他 (1 ページ)

表紙 (1 ページ)

表紙には、修士論文で取り扱いたい内容がわかるように論文の題目を簡潔に記し(1行以内)、その下に志願者本人の名前、修士論文の内容の要約(10行以内)を記述してください。

1.志望理由・自己アピール

Q1. 金融戦略・経営財務プログラムを志望する動機、背景、本プログラムで学ぶことで獲得したいこと、修了後のご自身のキャリアパスに関する構想について説明してください。(1,600～2,000 字程度)

Q2. これまでに最も自分を成長させた(最も困難だった)と考えることは何ですか。その理由、背景、メンバー、スキルについても具体的に記述してください。仕事に限らず、学生時代の部活動や現在の趣味でもかまいません。(800 字程度)

*Q3. これまでにボランティア活動、社会・地域活動、サークル活動(大学以降の学生時代のもの可)などをしてきましたか。参加もしくは立ち上げた団体名、活動内容、期間、役割などがあれば記述してください。(400 字以内)

*Q4. 音楽、絵画、彫刻、建築、文学、哲学、スポーツなど、あなたが興味を持ち、評価するものがあれば、簡潔に記してください。(400 字以内)

*Q5. 取得資格、表彰など、特記したいこと、自分についてアピールしたいことがあれば自由に記述してください。(400 字以内)

*は任意

(別紙)

2.修士論文計画書

Q6. 修士論文で取り扱いたい内容がわかるように論文の題目を簡潔に記述してください。(1行以内)(表紙と同じもの。)

Q7. 修士論文の作成に関して指導を希望する専任教員名を記述してください。複数の教員名をあげてもかまいません。

Q8.Q6 であげた内容に興味を持った理由、どのような点を解明したいのか、その解明の方法などを説明してください。また参考文献、必要なデータ・ソフトウェアなどがあればあげてください。(3,000字以内)

3.その他

Q9. 英語力に関して、あてはまるものがあれば、具体的に記述してください。

(a) 英検・TOEFL・TOEIC等の受験実績

(b) 海外勤務経験

(c) 留学経験

(d) 公表されている英語のレポートや論文の執筆

(英検・TOEFL・TOEICなどを受験している場合には、その点数を書き、得点表のコピーを同封して下さい。)

Q10. 過去に修士論文、博士論文を提出し、審査に合格している(または合格見込み)場合、もしくは学術論文などを刊行している場合は、1.題目と2.概要(3行以内)を記してください。

Q11. 以下のプログラミング言語・ソフトウェアについて利用した事があるものを記入してください。

① R

④ MatLab

② Python

⑤ C, C++

③ STATA

⑥ その他 ()

Q12. 企業派遣の方は社内選考の経緯や状況をお書きください。(200~400字程度)

以上